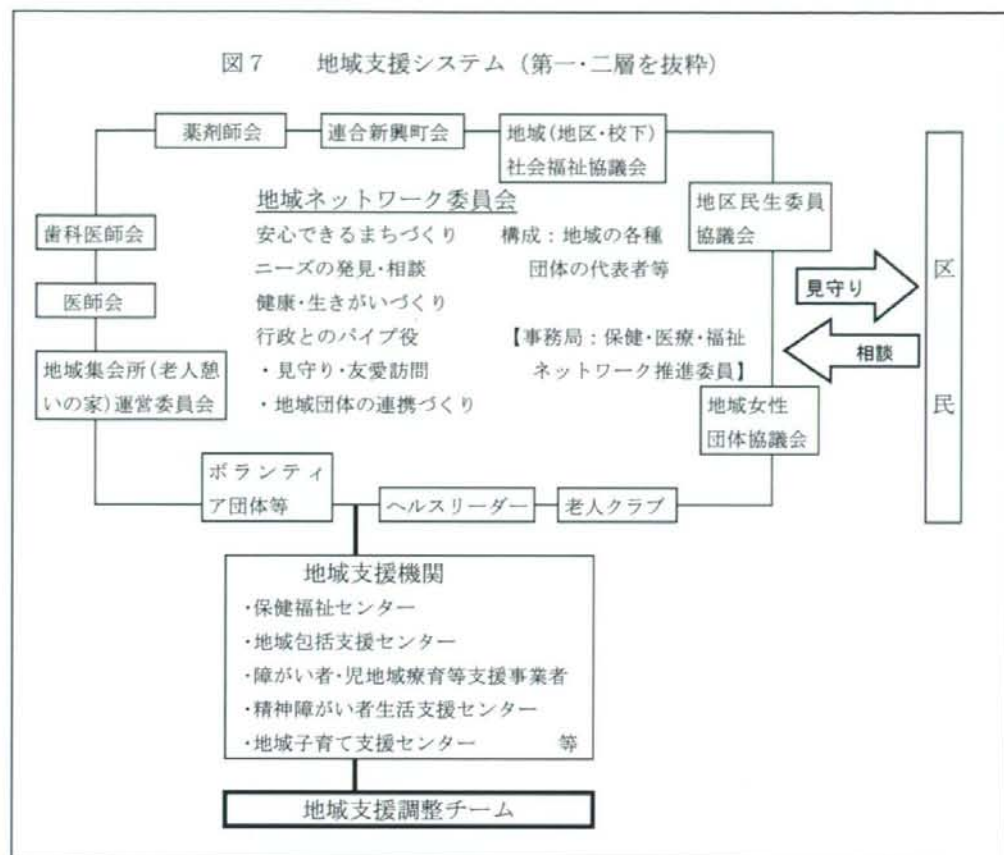


図7 地域支援システム（第一・二層を抜粋）



## 2. 本年度の取り組み

### 1) 見守り組織育成に向けた取り組み(研修会、事例検討会など)

#### (1) 取り組み状況：

本年度の取組として、住之江地域でのボランティアスクール開催があり、その概要を表4に示した。高齢者の見守りで、その対象者となる可能性が高いのが認知症高齢者である。認知症高齢者への見守りを安全に円滑に進めるためには、まず認知症に対して誤解のないように正しく理解することが求められる。そのような経緯から住之江地域では研修会を企画した。研修会はグループワークを取り入れた6日間のコースであり、開催頻度は6月、7月、9月にそれぞれ2回開催し、毎回のテーマと内容について表5に示した。毎回30～40人程度の参加者があり、盛況であった。平成21年度はこの研修会を発展させて、4回シリーズのボランティアスクールを計画しており、実践的なボランティア育成をめざして始動しつつある。

#### 2) 住民側および専門職側の見守り基準

現在のところ明確な見守り基準は住民側および専門職側のいずれにも存在しない。

#### 3) 孤立死等の各種困難事例への支援件数

見守りや援助を拒否する事例、情報が得られにくい事例等については、インタビュー調査およびアンケート調査の項で述べる。また、各種別支援体制(専門職、ボランティア、専門職の動きなど)や、関係者の役割分担などについても明確な指針等が確立していないため、この項については論じない。

表4 住之江地域でのボランティアスクール開催の概要

回数	日程	テーマ	担当スタッフ
第1回	平成20年6月13日	「認知症」って -その1-	地域生活支援ワーカー
第2回	平成20年6月20日	「認知症」って -その2-	地域生活支援ワーカー
第3回	平成20年7月11日	認知症ケアにおける「社会資源」	主任ケアマネジャー 社会福祉士 あんさぼ相談員 地域生活支援ワーカー 包括支援担当主査
第4回	平成20年7月18日	認知症になっても、住み慣れた地域で暮らしていくために	主任ケアマネジャー 地域活動担当主査
第5回	平成20年9月12日	じぶんでできる予防(簡単ストレッチ)	健康運動指導士同士(外部)
第6回	平成20年9月19日	どうすれば防げるか認知症	主任ケアマネジャー 保健師 地域生活支援ワーカー

表5 住之江地区でのボランティアスクール内容

回数	内容
第1回	1. オリエンテーション(全体の講座のねらいを説明する。) 2. 認知症サポーター講座の目的・目標の説明。 3. 0 認知症の症状と進行 4. 認知症は病気であることと理解と受診の必要性
第2回	1. 認知症の初期のサイン 2. 認知症の症状の実際(ロールプレイ) 3. 認知症の人への関わり方の原則 4. 介護者家族への関わり方
第3回	1. 大阪市の高齢者施策の概要 2. 成年後見制度 3. あんしんさぼ一と 4. 介護者家族の会
第4回	1. DVD「ぼくのおじいちゃん」視聴 2. グループワーク「自分が認知症になったら」 ・困ること、どうして欲しい ・課題解決の方法①地域・近隣でできること ②できないこと 3. 求められる地域像とは?
第5回	自分でできる認知症予防活動(簡単ストレッチ)
第6回	1. 私も認知症予備軍?自己診断テスト 2. どうすれば防げるか認知症 3. 認知症予防の方法紹介 4. 認知症予防へのメッセージ

## 第3章 調査結果

### 1. アンケート調査

#### <目的・方法>

##### ○調査の目的

本章では、高齢者のセルフ・ネグレクトおよび孤立死を防ぐための地域見守り組織のあり方について検討を行うために、地域住民へのアンケート調査を行った。地域における見守り組織のあり方を検討する際には、それぞれの地域の住民組織体制や地域性による違いをふまえることが必要である。本研究では、住之江区の2つのネットワーク委員会や地域のボランティア対象に実施した見守りに対する実態調査を通して、見守り活動並びに専門職の支援のあり方を考えることを目的とした。

##### ○調査の方法

###### 1) 対象者

対象者は大阪市住之江区地域包括支援センターの管轄地域である住之江地域ネットワーク委員およびボランティア、並びに南港緑地域ネットワーク委員およびボランティアであり、対象者数は各地域50人、合計100人である。

###### 2) 方法

両地域のネットワーク委員会の代表に自記式質問紙の配布を依頼し、回収は郵送法とした。

###### 3) 時期

平成20年11月20日～12月5日

###### 4) 調査内容

基本属性（性、年齢、校区、地域での役職・職種）、見守り内容、孤立死防止に関する項目

###### 5) 分析方法

基本属性別等に見守り内容、孤立死防止に関する項目を比較・検討する。

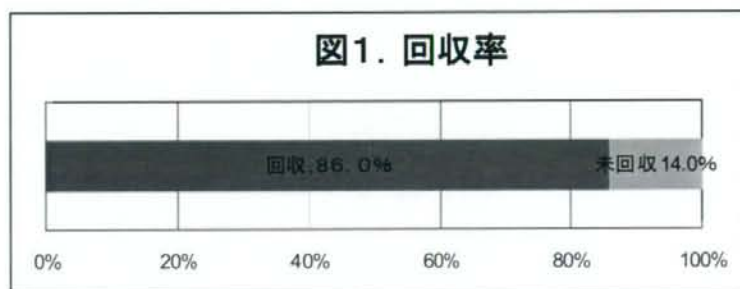
###### 6) 倫理的配慮

本研究は甲南女子大学看護リハビリテーション学部研究倫理委員会の承認を得て実施している。研究対象者へ研究の主旨、匿名性、研究への参加は対象者の自由意志であり、不参加の場合に不利益を被るものではないこと、途中でいつでも参加中止が出来ること、面接内容に関するプライバシー保護を厳守すること、得られたデータは本研究目的以外に使用しないことを記載した調査依頼文を送付して研究協力を依頼し、アンケートの返送をもって同意を得たとした。

## <結果>

### 1) 回収数(回収率)

回収数は86人(回収率86.0%)であった。(図1)



### 2) 基本属性

#### (1) 性別

男性24人(27.9%)、女性62人(72.1%)であり、女性の方が多かった。(表1、図2)

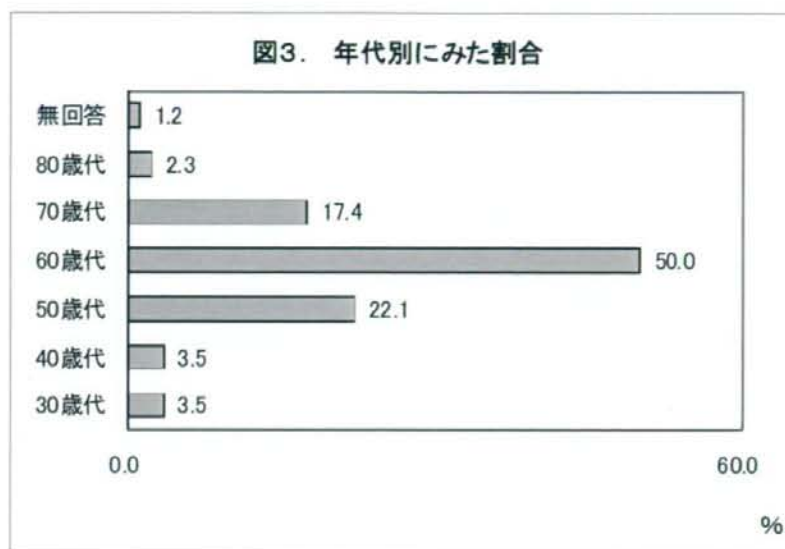


#### (2) 年齢

60歳代が43人(50.0%)と最も多く、次いで50歳代の19人(22.1%)であった。80歳代も2人(2.3%)と、60歳代以上で7割を占めた。(表1、図3)

**表1. 性別、年齢階級別にみた割合**

年齢階級	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
30歳代	0	0.0	3	4.8	3	3.5
40歳代	0	0.0	3	4.8	3	3.5
50歳代	4	16.7	15	24.2	19	22.1
60歳代	14	58.3	29	46.8	43	50.0
70歳代	4	16.7	11	17.7	15	17.4
80歳代	2	8.3	0	0.0	2	2.3
無回答	0	0	1	1.6	1	1.2
合計	24	100.0	62	100.0	86	100



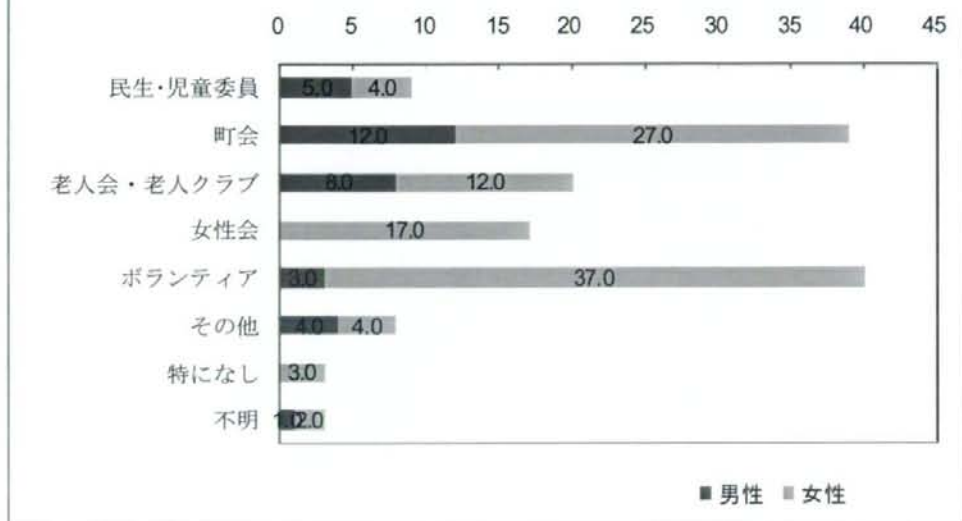
### (3) 地域での役職

地域での役職をみると（表2）、ボランティアが40人（46.5%）、町会長が39人（45.3%）とそれぞれ約半数を占めていた。また2つ以上の役職を兼任している者もいた。各役職の男性・女性の人数は図4のとおりである。

**表2. 性別にみた役職(複数回答)**

	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
民生・児童委員	5	20.8	4	6.5	9	10.5
町会長	12	50.0	27	43.5	39	45.3
老人会・老人クラブ	8	33.3	12	19.4	20	23.3
女性会			17	27.4	17	19.8
ボランティア	3	12.5	37	59.7	40	46.5
その他	4	16.7	4	6.5	8	9.3
特になし			3	4.8	3	3.5
不明	1	4.2	2	3.2	3	3.5
	24		62		86	

図4. 全体における性別にみた役職(複数回答) %



(4) 所属している校区

所属している校区は表3、図5に示すとおりである。なお、校区別の性別割合は、男性が占める割合では住之江地域では15.2%であったのに対して、南港緑地域では42.5%と性別の割合に差を認めた。(表4)

表3. 所属している校区の割合

校区名	人数	%
住之江地域	46	53.5
南港緑地域	40	46.5
不明	0	0.0
合計	86	100

図5. 所属校区の割合 n=86

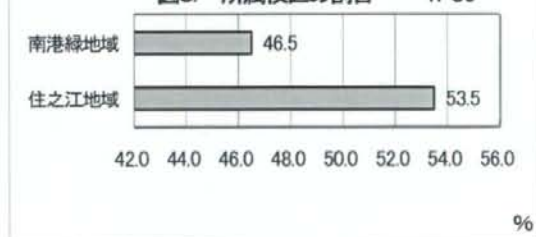


表4 校区別・性別割合

地域名	男性		女性		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%
住之江地域	7	15.2	39	84.8	46	100.0
南港緑地域	17	42.5	23	57.5	40	100.0
合計	24	27.9	62	72.1	86	100.0

### 3) 地域や近所との関係について

#### (1) 信頼感の構築に対する認知の程度

「あなたの校区の人々は信頼感構築は楽きやすいですか」の質問では、「楽きやすい」が14人（16.3%）、「まあ楽きやすい」が42人（48.8%）と65%の人は楽きやすいと認知していたが、「どちらとも言えない」26人（30.2%）、「楽きにくい」2人（2.3%）と回答する人もいた（図6-1）。なお、無回答は2人（2.3%）であった。性別でみた結果では、男性は「どちらとも言えない」が9人（37.5%）と最も多く、女性では楽きにくいと回答した人も2人（3.2%）いた（図6-2、6-3）。

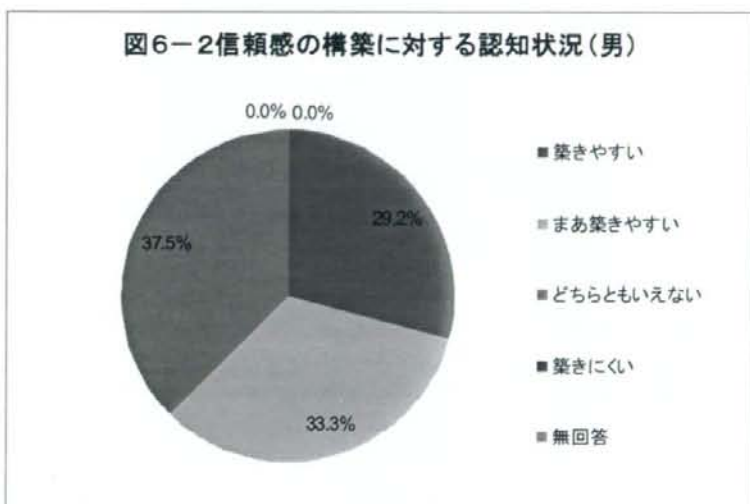
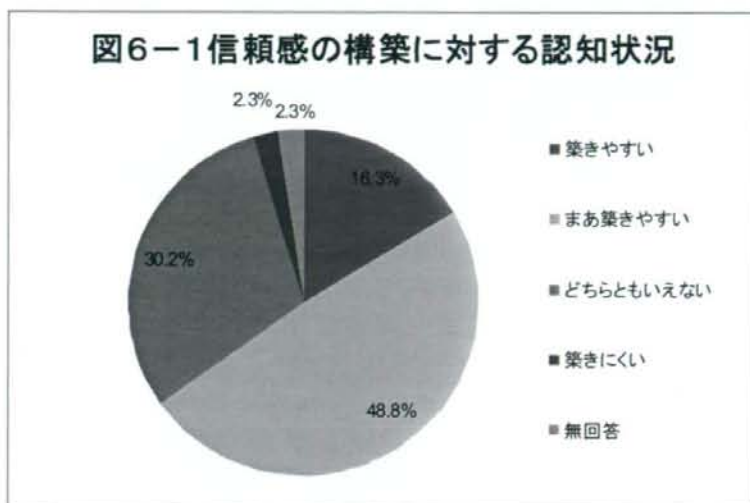
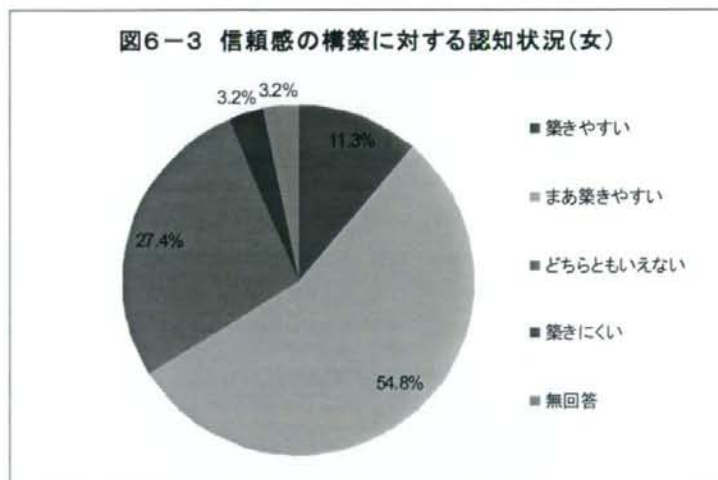


図6-3 信頼感の構築に対する認知状況(女)



(2)人の役に立とうとすることに対する認知の程度

「地域の人とは多くの場合、他の人の役に立とうとしますか」という質問に対して、「とても思う」が9人(10.5%)、「まあ思う」が48人(55.8%)と65%の人は「思う」と肯定の回答をしていた。

しかし、「どちらともいえない」が27人(31.4%)、「そう思わない」が1人(1.2%)、無回答1人(1.2%)であり(図7-1)、性別でみると、女性は男性より役に立とうとしておりと認知する傾向が認められた(図7-2、7-3)。

図7-1 人の役に立とうとしますか

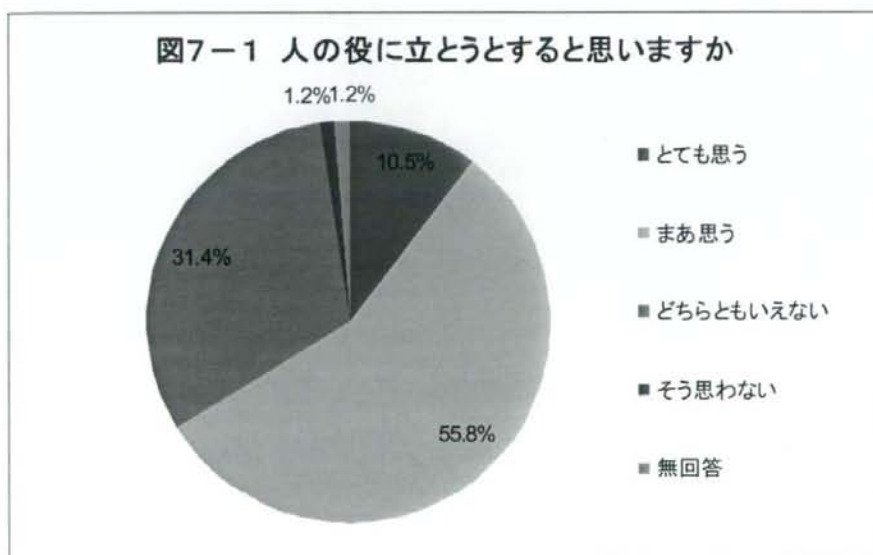




図7-2 人の役に立とうとしますか(男)

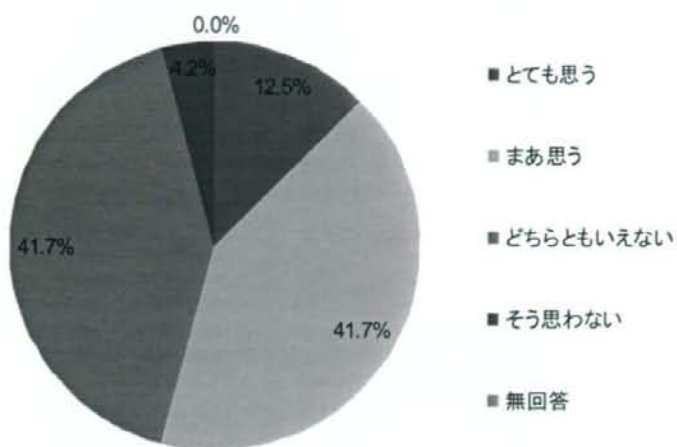
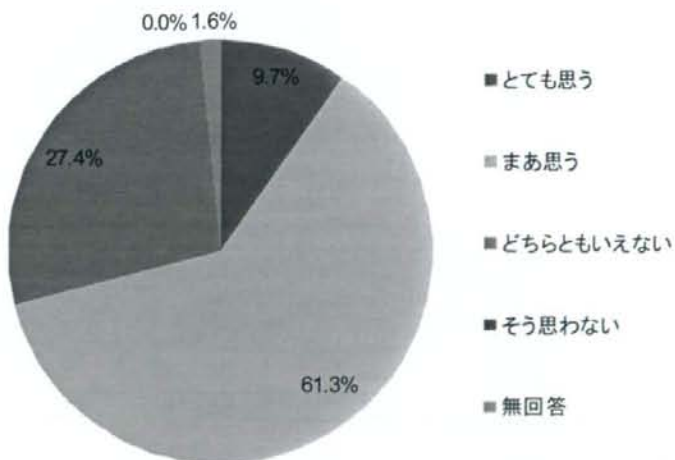


図7-3 人の役に立とうとしますか(女)



### (3)地域に対する愛着の程度

地域に対してどの程度愛着を感じているのかを質問した。「とても愛着がある」が30人(34.9%)、「まあ愛着がある」が35人(40.7%)と75%の人が「愛着がある」と回答していた(図8-1)。なお、女性は男性に比べて有意に愛着があると感じていた(図8-2、8-3)。

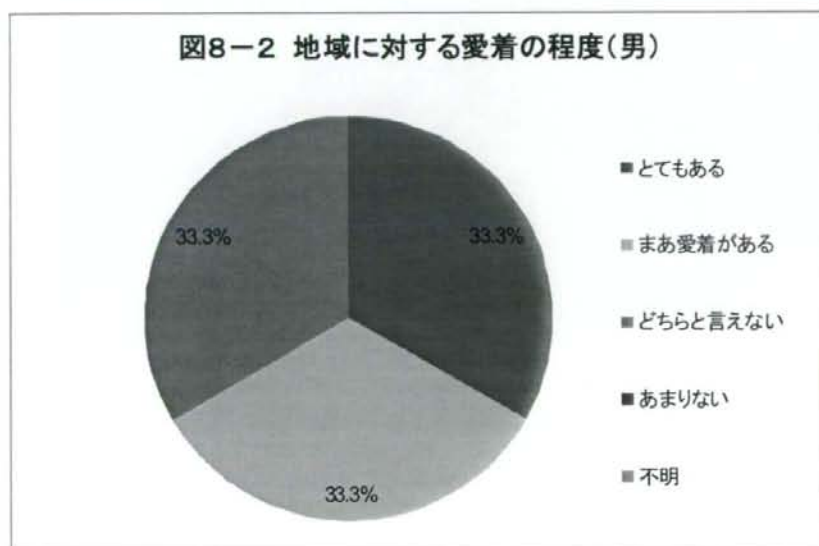
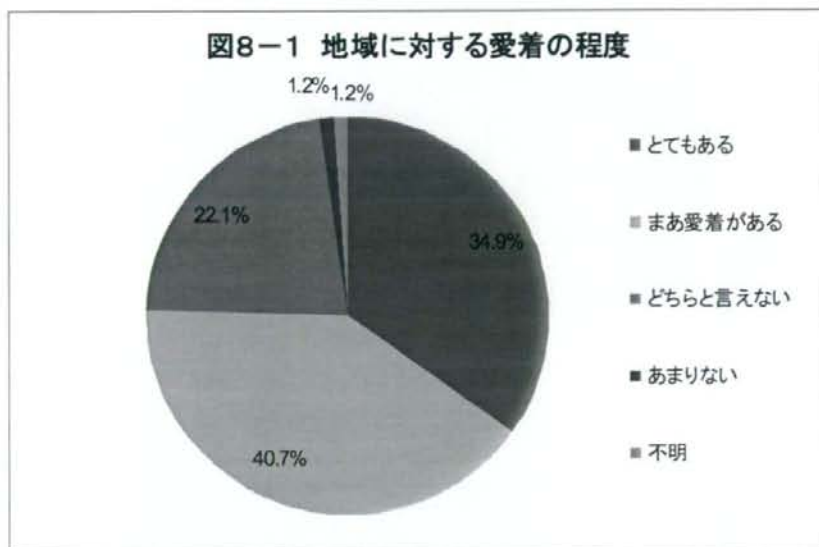
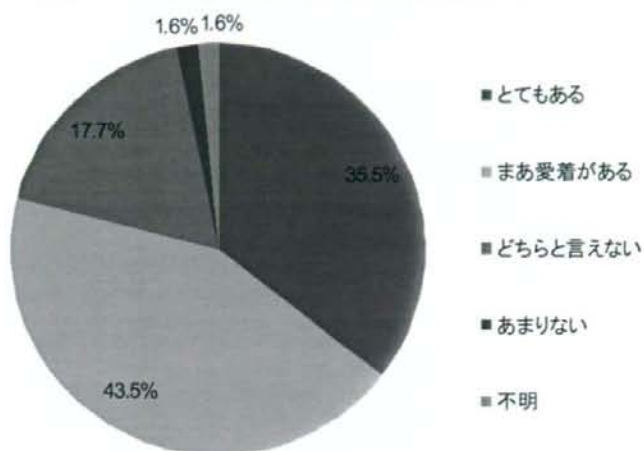


図8-3 地域に対する愛着の程度(女)



#### (4) 近所との付き合い

近所との付き合いの程度については、「互いに相談したり、日用品の貸し借りをするなど生活面で協力している」が24人(27.9%)、「立ち話程度」が52人(60.5%)、「挨拶程度」が9人(10.5%)、無回答1人(1.2%)であり、「付き合いなし」と回答した人はなかった(図9-1)。性別で見ると、女性は「立ち話程度」と回答している割合が6割以上を占めていた(図9-2、9-3)。

図9-1 近所付き合いの程度

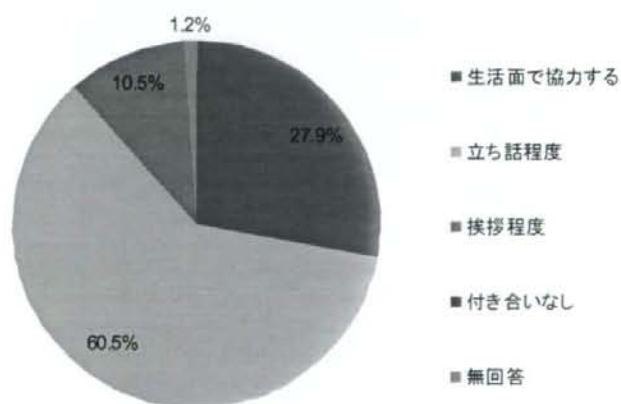


図9-2 近所付き合いの程度(男)

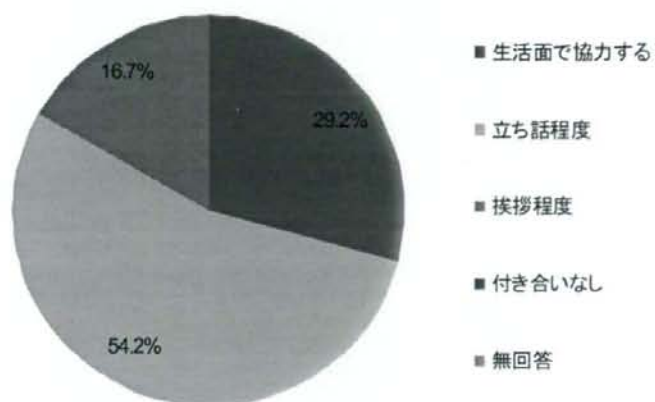
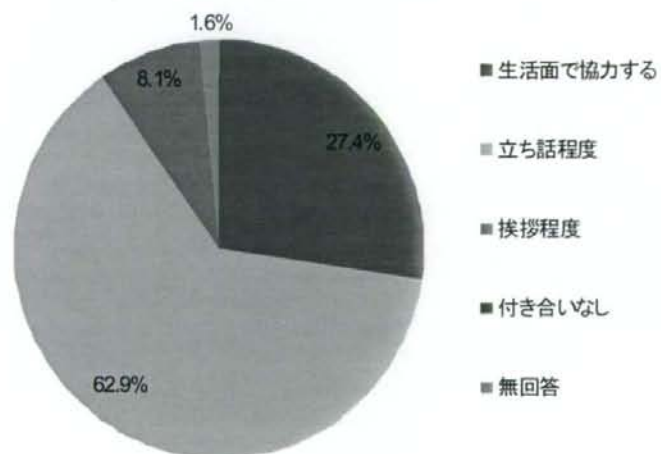


図9-3 近所付き合いの程度(女)



#### (5) 近所付き合いの範囲

近所付き合いの範囲を人数で質問した。「地域の半分程度の人」が最も多く52人(60.5%)、次いで「地域のほぼすべての人」が24人(27.9%)であり、両者を合わせるとほぼ9割を占めた。(図9-4) 女性は男性より多くの人と付き合っている傾向があった。(図9-5、9-6)

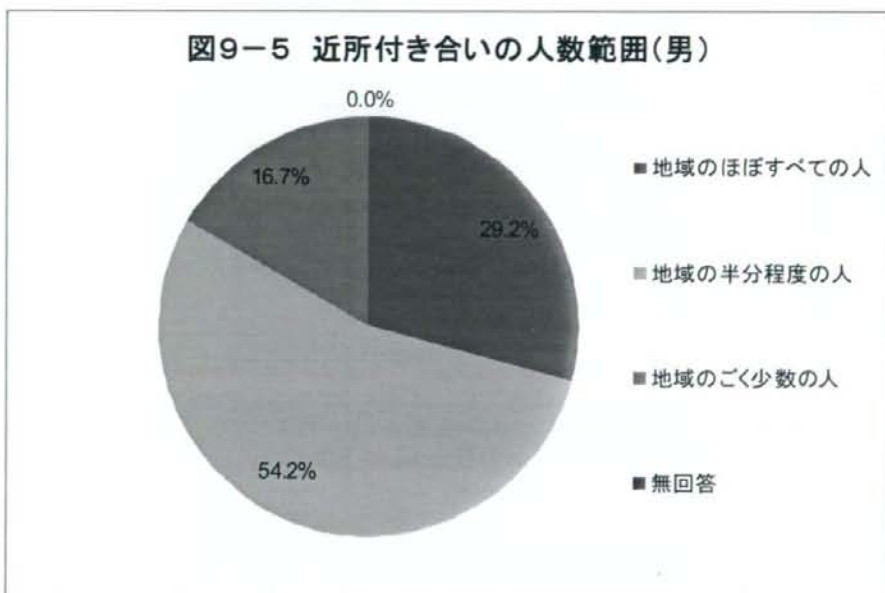
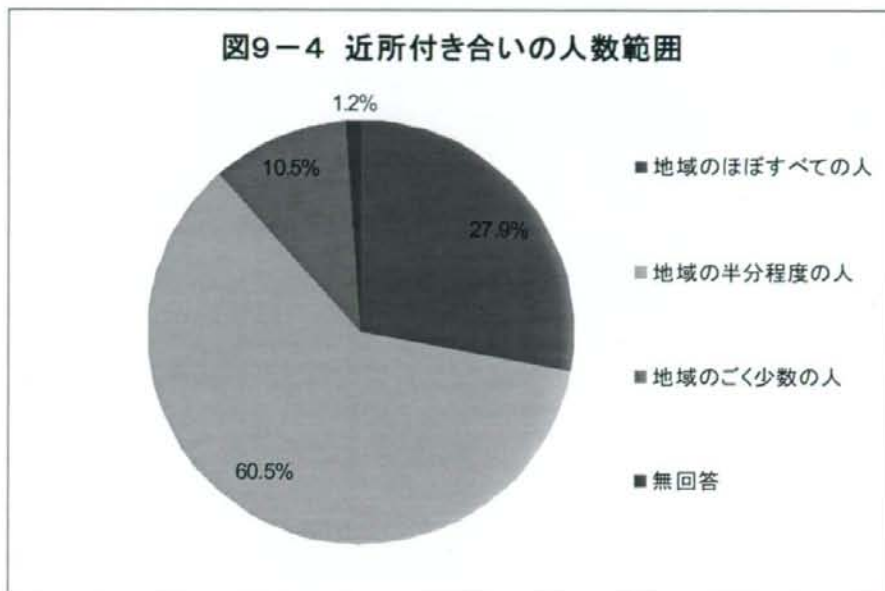
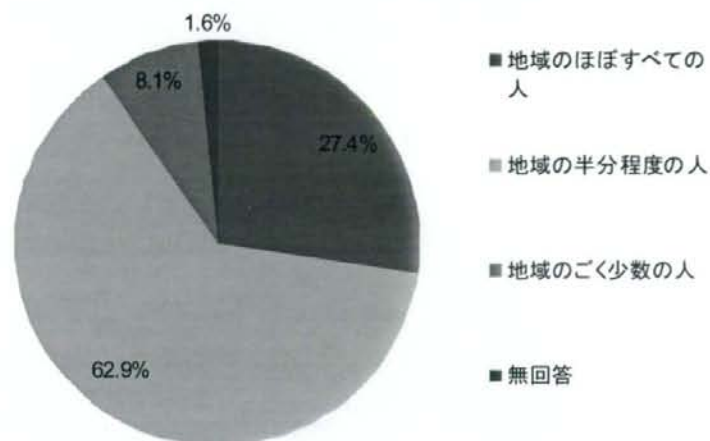


図9-6 近所付き合いの人数範囲(女)



#### 4) 地域ネットワーク委員会の認知度と活動内容

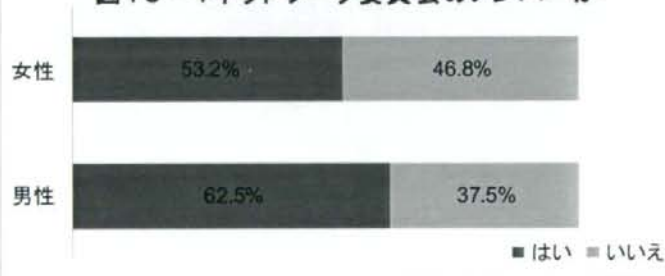
##### (1) 地域ネットワーク委員会認知の程度

地域ネットワーク委員会のメンバーであるか否かを質問した。全体の48人(55.8%)がネットワーク委員であると回答し、性別では男性の15人(62.5%)、女性の33人(53.2%)がネットワーク委員であると回答した。(表5、図10-1)

表5 ネットワーク委員会のメンバーか

	男性		女性		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
はい	15	62.5	33	53.2	48	55.8
いいえ	9	37.5	29	46.8	38	44.2
合計	24	100.0	62	100.0	86	100.0

図10-1 ネットワーク委員会のメンバーか



次に、地域の人が地域ネットワーク委員会をどの程度知っているかを見ると、「よく知っている」が11人（12.8%）、「知っている」が25人（29.1%）と両方で4割を占めていたが、「あまり知らない」が16人（18.6%）、「殆ど知らない」が4人（4.7%）、無回答が30人（34.9%）とほぼ6割の人が知られていない、もしくはどのように認知しているのか分からないと知っているようであった。なお、性別で認知に程度を比較してみたが、女性は男性に比べて「知っている」と認知している傾向を認めた。（図10-2、10-3、10-4）

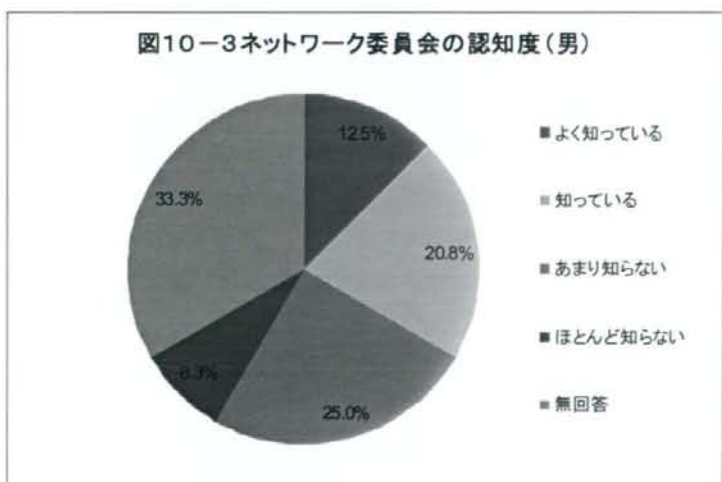
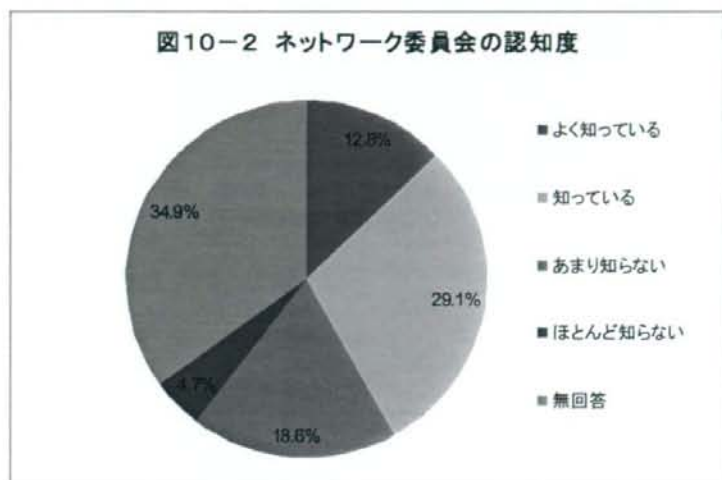
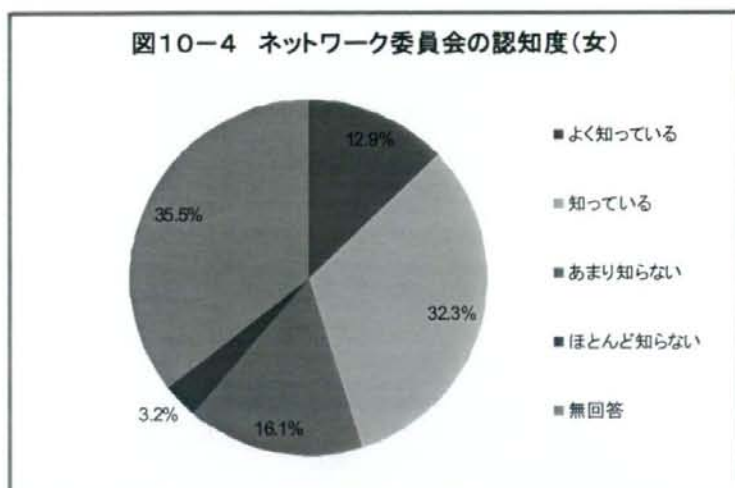


図10-4 ネットワーク委員会の認知度(女)



(2)地域ネットワーク委員会活動の評価

地域ネットワーク委員会活動を住民はどのように評価していると思うかを質問した。「感謝している」は30人(34.9%)、「世話好き」が7人(8.1%)、「無関心」が3人(3.5%)であり、無回答が44人(51.2%)を占めた。(表6、図11-1) 性別では「感謝している」と回答した割合は女性に多かった。(表6、図11-2、11-3)

表6 ネットワーク委員会の活動の評価

	男性		女性		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
感謝している	7	29.2	23	37.1	30	34.9
世話好き	1	4.2	6	9.7	7	8.1
無関心	3	12.5	0	0.0	3	3.5
その他	1	4.2	1	1.6	2	2.3
無回答	12	50.0	32	51.6	44	51.2
合計	24	100.0	62	100.0	86	100.0



図11-1 ネットワーク委員会の評価

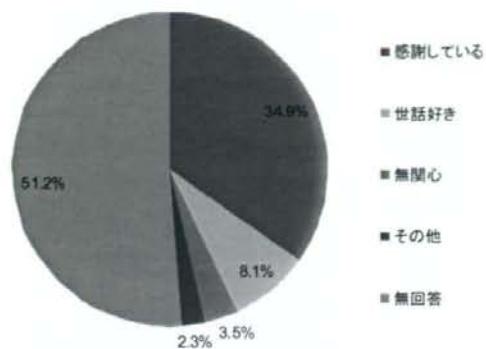


図11-2 ネットワーク委員会の評価(男)

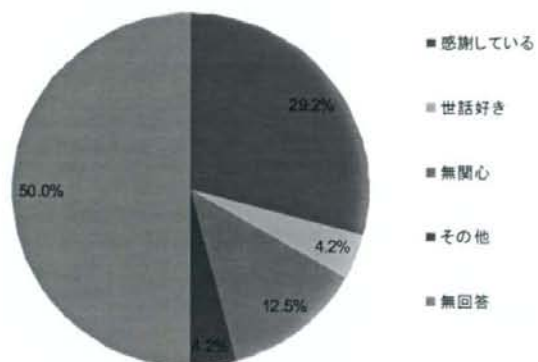
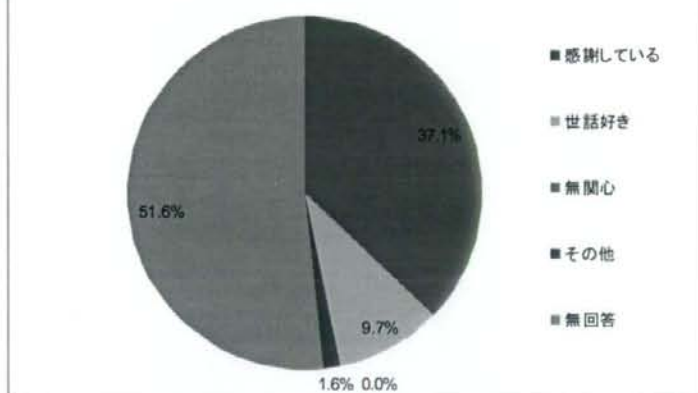


図11-3 ネットワーク委員会の評価(女)



(3) 地域ネットワーク委員会の活動内容と思うもの

地域ネットワーク委員会の活動内容と思うものは、「見守り活動」が最も多く42人(48.8%)、次いで「交流の場の開催」が40人(46.5%)、「相談活動」と「地域の高齢者の実態把握」がそれぞれ35人(40.7%)であった。(表7-1、図12-1)

表7-1 地域ネットワーク委員会の活動と思うもの(複数回答)

	件数	(全体)%
見守り活動	42	48.8
相談活動	35	40.7
保健・医療・福祉の 情報提供	32	37.2
地域の連携・協力体 制づくり	32	37.2
交流の場の開催	40	46.5
勉強会開催	23	26.7
関係機関との連携	27	31.4
災害時の対応	17	19.8
地域の高齢者の実 態把握	35	40.7
無回答	30	34.9
合計	86	100.0

図12-1 地域ネットワーク委員会の活動と思うもの(%)



(4) 地域ネットワーク委員会の一員として実行している活動内容

地域ネットワーク委員会の一員として実行している活動内容も、地域ネットワーク委員会の活動内容と思うものと同様で、見守り活動が最も多く34人(39.5%)、次いで交流の場の開催25人(29.1%)、相談活動22人(25.6%)であった。(表7-2、図12-2)

表7-2 地域ネットワーク委員会としての活動内容

	件数	%
見守り活動	34	39.5
相談活動	22	25.6
保健・医療・福祉の情報提供	10	11.6
地域の連携・協力体制づくり	18	20.9
交流の場の開催	25	29.1
勉強会開催	12	14.0
関係機関との連携	10	11.6
災害時の対応	5	5.8
地域の高齢者の実態把握	18	20.9
その他	2	2.3
無回答	35	40.7
合計	86	100.0

図12-2 地域ネットワーク委員会の活動内容(%)



(5) 地域ネットワーク委員会の活動についての意見

地域ネットワーク委員会の活動についての意見が記載してあった内容を表7-3に示した。活動を評価する意見や、人数を増やして活動の活性化を図ることの必要性などに関する意見がある一方、無関心な人の存在が多くなったのではないかという感想もあった。

表7-3 ネットワーク委員会の活動に対する意見

・ネットワーク委員会の中心の人がよく把握して展開されているし、委員の活動、集まりも定期的に実施されている。
・何事にも前向きな指導者が見られるので、意見、実施方法に賛同し、ついていっている。
・今後災害時の対応についても活動を促していきたい。
・推進委員を中心に女性部が頑張っている。
・社会福祉の目的を持つ多くの団体、組織からの委員構成は各層の問題に対するアンテナ役・パイプ役として機能していると思う。支え合い、生きがいづくりの活動は、より多くの住民に知らしめる必要があると思います。
・今後益々高齢化になり、今後ネットワーク委員またボランティアさんの人数を増やすよう、呼びかけ、地域の活性化を行う。
・ネットワーク委員会のためにとでも努力をしておられる方もいられますが、新しくマンションに入られた方には、そういうことにはあまり関わりたくない場合の人が多いように思う。
・一人暮らしの高齢者宅へ訪問した時に元気な姿で出てきたらホッとします。
・毎月ネットワーク委員会を行っていますが、殆ど何かの研修程度で、見守り的な話はあまりない。
・高齢者食事サービスで毎月元気に顔を見る。食事を楽しく食べ喜んで頂ける楽しみ、また道での挨拶など。